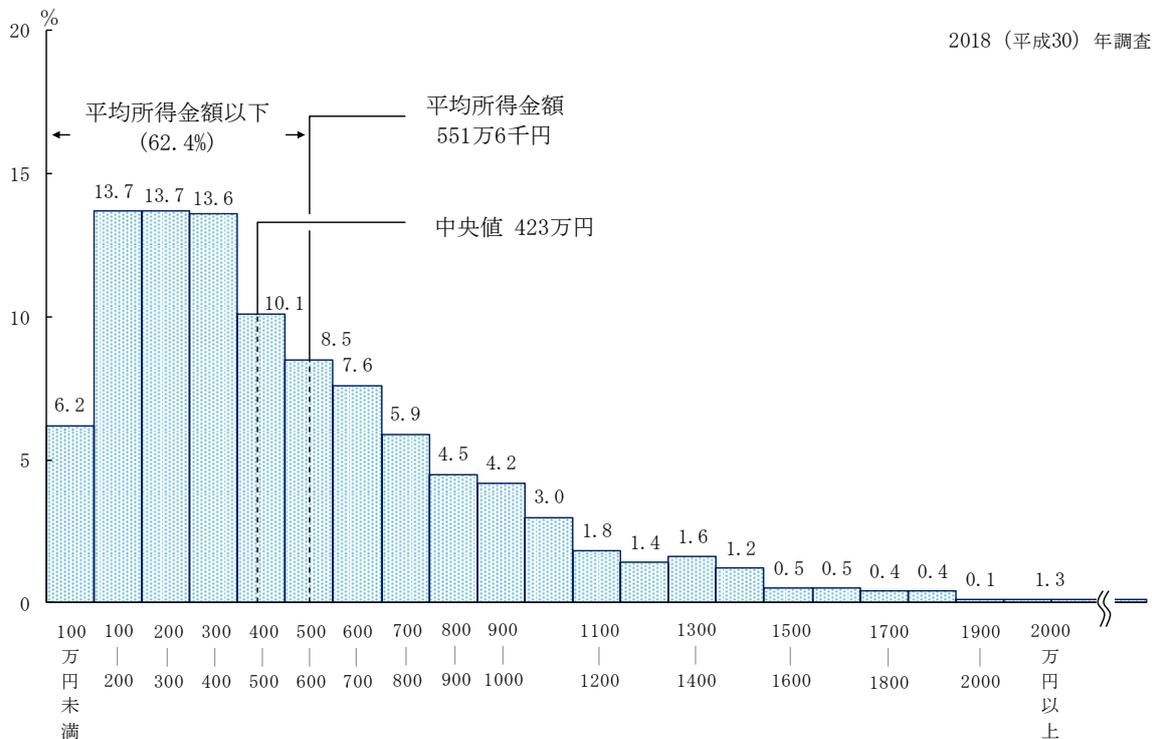


2 所得の分布状況

所得金額階級別世帯数の相対度数分布をみると、「100～200万円未満」及び「200～300万円未満」が13.7%、「300～400万円未満」が13.6%と多くなっている。

中央値（所得を低いものから高いものへと順に並べて2等分する境界値）は423万円であり、平均所得金額（551万6千円）以下の割合は62.4%となっている。（図9）

図9 所得金額階級別世帯数の相対度数分布



3 世帯主の年齢階級別の所得の状況

世帯主の年齢階級別に1世帯当たり平均所得金額をみると、「50～59歳」が782万4千円で最も高く、次いで「40～49歳」、「30～39歳」となっており、最も低いのは「29歳以下」の376万1千円となっている。

世帯人員1人当たり平均所得金額をみると、「50～59歳」が285万3千円で最も高く、最も低いのは「30～39歳」の179万6千円となっている。（図10）

図10 世帯主の年齢階級別にみた1世帯当たり－世帯人員1人当たり平均所得金額

